

視察報告書

市民経済委員会

報告者

松尾 澄子



1 期日 平成26年9月18日(木)

2 視察地及び調査事項

・ 柏市南部クリーンセンター

ボックスカルバートの設置状況

感想

・ 東京電力福島第一原発事故で発生した1キログラム当たり8000ベクレルを超える放射性物質を含む焼却灰(指定廃棄物)が県営手賀沼下水道終末処理場(我孫子市、印西市)に一時保管されています。国は手賀沼終末処理場での保管期限となる来年3月末までに、県内に最終処分場を整備する方針を示していましたが、いまだ候補地も決まっていません。そのため、流山市は汚染された焼却灰を手賀沼終末処理場から流山市内に持ち帰る必要があります。その運搬費や保管できる施設の設計費など1386万円を第3回定例会の一般会計補正予算に計上しました。手賀沼終末処理場で一時保管している指定廃棄物は178トン、その他市クリーンセンター内の仮設テントに一時保管している指定廃棄物及び搬出出来ない焼却灰972トンを合わせると1150トンを一括保管することになります。そのため、一時保管するための遮へい率の高い(99%)厚さ30センチの鉄筋コンクリート製の一時保管庫「ボックスカルバート」を流山市クリーンセンター敷地内に設置し一時保管する予定です。そこで、市民経済常任委員会では9月18日、すでに「ボックスカルバート」を設置している柏市の南部クリーンセンターを視察してまいりました。

「ボックスカルバート」は厚さ30センチとはいうものの、外からしか見ることは出来ないため、流山市で今後設置する経過の過程で改めて搬入前の「ボックスカルバート」を視察したいと思います。あくまでも一時保管であることを地域住民や地元自治会には丁寧に説明をしていただくとともに、国に対しては最終処分場の早期確保を強く要望致します。

以上

視 察 報 告 書

報告者氏名 加藤 啓子



- 1 柏市南部クリーンセンター
流山市クリーンセンター

2 期 日 平成26年9月18日(木)

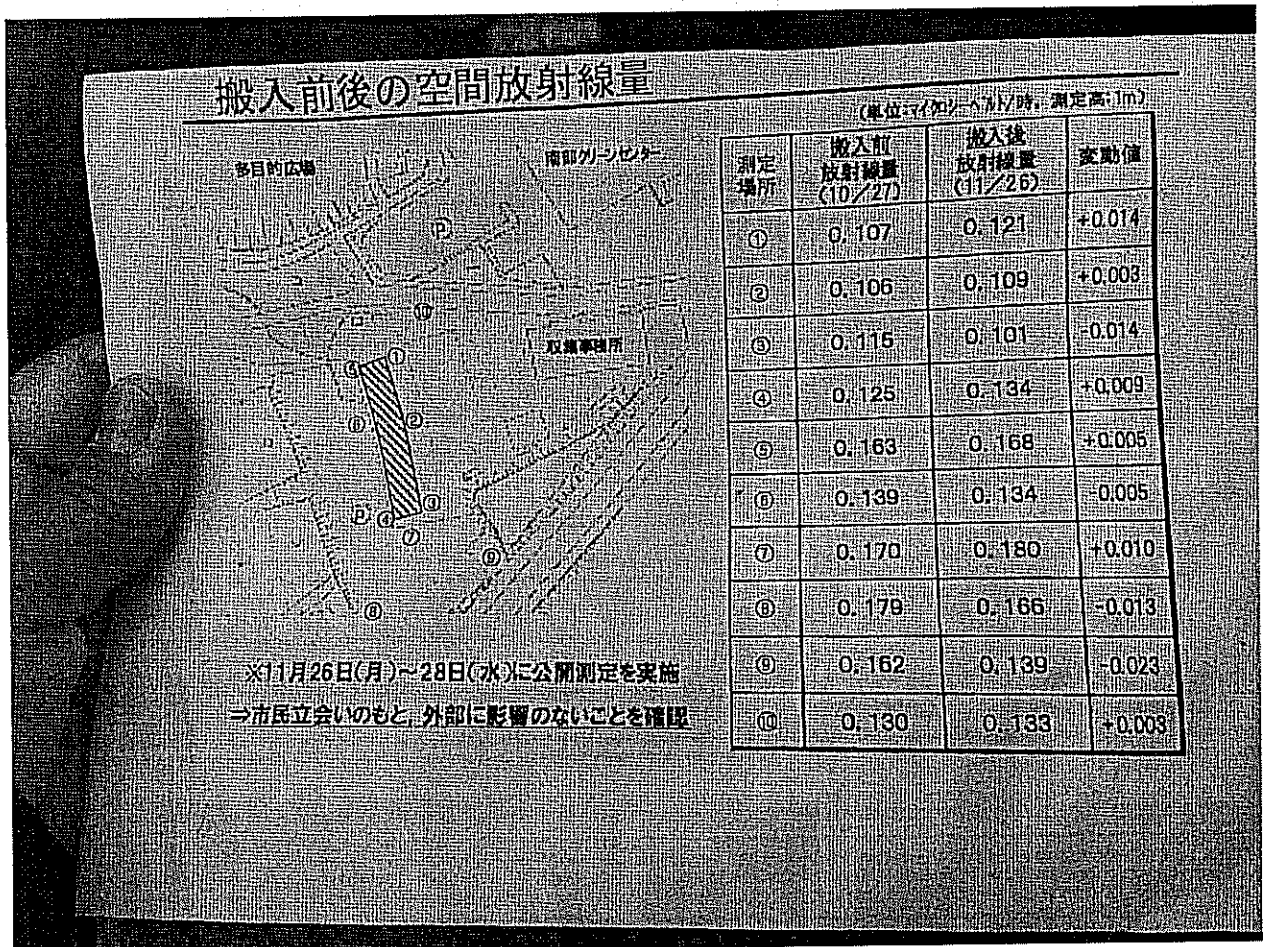
- 3 視察地及び調査事項

手賀沼終末仮処分場に置いてある放射性物質の保管について平成27年3月末までに各自治体に最終処分場ができるまで各自治体の自区内処理となる関係で、柏が行っている保管方法を視察するとともに、流山市の受け入れ先を確認し、執行部の報告について課題になるべきところがないかどうかを議会として視察いたしました。

- 4 所感等

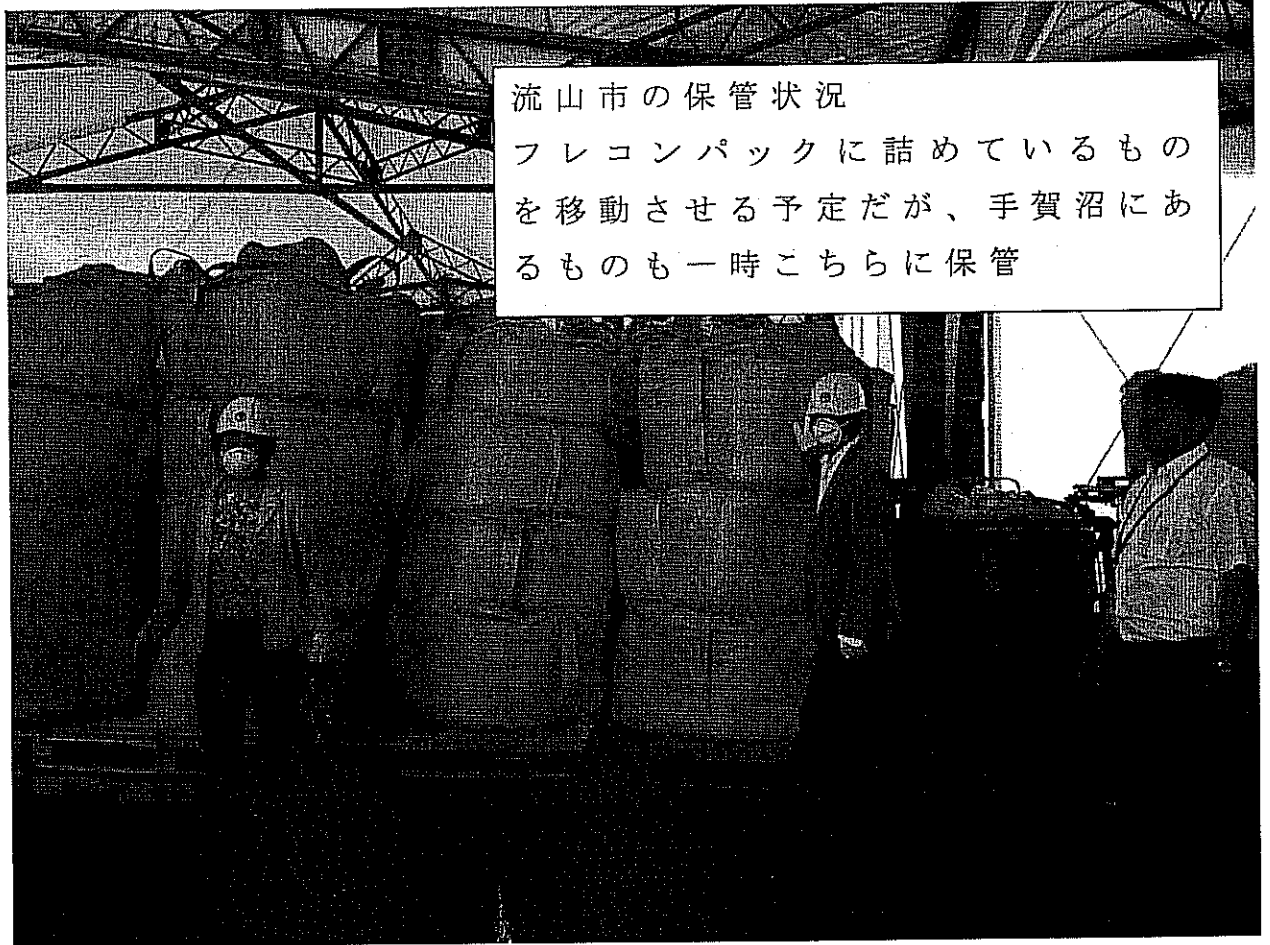
福島第一原子力発電所の倒壊から3年半経ているにもかかわらず、いまだに汚染物質の最終処分場が見つからない。千葉県内では5000か所以上の候補地が出ていると聞いているが普通に考えても誰だって危険なものを持ち込まれては困るというのが心情であろうと思う。東電が出したものは東電が責任を持って回収する必要があると個人的には考える。しかし現実的には難しいことを考えると国がある程度は解決しなければならない。国も東電もあまりに対応が遅すぎる。東電に返せないのであれば東電は国が負担していく＝国民の税金を使う部分に対し、賠償金という形で保管してもらっているお金を払うべきと考える。柏が最初から行っていたボックスカルバート方式の保管方法は放射線の遮蔽率が99%ということであり、地域住民を守るためにも期待できる保管方法である。もっと早い時期にこの方法で保管すべきであっ

たと思わざるを得ない。今のスケジュールでは、いったん手賀沼のフレコンバックを別のフレコンバックを使って詰め替えてボックスカルバートに移動しなければならず、2回の移動に対し無駄な経費がかかるのではないかと市民からも早くボックスカルバートを作るべきという意見が出ている。全額国の予算で移動するのであり、市の負担はないという答弁に対しても国の予算であっても税金である。というもったもな意見が出ている。議会としても建設費が適正であるか、時期についても無駄な遅延がないように、さらには移動時のルートなどについても執行部の計画を把握し、意見していきたいと考える。



柏南部クリーンセンターの
ボックスカルバート





流山市の保管状況

フレコンパックに詰めているものを移動させる予定だが、手賀沼にあるものも一時こちらに保管

視 察 報 告 書

報告者氏名 中村 彰男



1 委員会名

市民経済委員会

2 期 日

平成26年9月18日(木)

3 視察地及び調査事項

千葉県柏市

指定廃棄物の一時保管施設について

4 所感等 流山市から手賀沼終末処理場に178トン、フレコンパック243袋が保管されているところ、千葉県の方向性として、平成26年度末までに、手賀沼終末処理場の一時保管場所からごみ焼却灰を搬出すること、また、平成26年度末までの最終処分場の確保が困難な場合に備え、各市において一時保管を行う準備を進めておくことが既に決定されていた。

流山市では、フレコンパックという塩化ビニールのものを使用し、クリーンセンター内の焼却場のサーカステントで指定廃棄物を保管しているが、フレコンパック、サーカステントのままでは、台風災害、竜巻等で屋根が飛ばされた場合、樹脂系であるから新川耕地に膨大な被害を及ぼすことになる。

飛散防止にもつながるということで、資材置き場の跡地にボックスカルバート(道路上の共同排水溝に使用されるコンクリート製の既製品、壁の厚さが20から30センチメートル)を設置することを検討した次第であるが、市民経済委員会の所管であることから、柏市が既に導入しているということで、8月28日の市民経済委員会協議会において、現地視察を提案し、了承された。

9月18日、執行部の説明を受けたうえで、柏市南部クリーンセンターに赴き、現地視察を行い、執行部との意見交換を行った。

執行部との意見交換では、運搬について、飛散防止に配慮いただくことは勿論であるが、流山市は以前搬入した際に白ナンバーを使用して新聞等で問題になっていたため、執行部に確認を行ったところ、営業ナンバーの車を使って持ち帰るということの基本にしているとのこと、市内業者でまず受注先を探し、なければ市外にも求めてくとのこと、廃棄物の運搬に精通していること、また放射能の運搬等の教育を受けているようなところに発注して安全に安心して運搬をしていきたいとの見解をいただいた。

また、ボックスカルバートを早急に設置するとの観点から、ボックスカルバートの材料だけは市からと提案したところ、材料費そのものの予算もなく、結局12月補正対応することになるとのことであったが、一日も早く設置するようご努力いただくことになった。

視 察 報 告 書

委員会名 市民経済委員会

報告者名 徳 増 きよ子



期日 平成26年9月18日(木)

柏市南部クリーンセンター 一時保管庫 視察(放射性物質保管)

○ボックスカルバートの選択の経緯

南部クリーンセンターは、住宅地が近隣にあるため、遮蔽率が高く、外部に飛散しないように堅牢なものを選択したと説明あり。

【ボックスカルバートの概要】

- ・厚さ30cmのコンクリート製
- ・内径 W5700mm H3500mm D4800mm

【費用・遮へい率】 ・遮へい効果99% ・現在の放射線量 0.12 μ Sv/h

【建設費用】66,447,150円(全額国庫費用)

【周辺住民への周知】測定は週2回・HPで測定結果を掲載

【雨水の浸透対策】ボックスカルバートに内面防水塗装、接続部分の防水シール

その他 ボックスカルバート内には、ドラム缶1824本収容、ドラム缶内にはエポキシ樹脂塗装をしている。

所 感

柏市では早くから、指定廃棄物(放射性物質)をドラム缶にいれ、保管している。流山市では、放射能を帯びた物質は、フレコンバッグに入れ、保管している。フレコンバッグはポリエチレンやポリプロピレン等の化学繊維でできており耐性年数は5年前後となっているようです。最終処分場の決定後、そこに搬入することになっているということだが、いつになるか見通しはありません。流山市の保管もこの先何年にわたるか不明です。その時にフレコンバッグがどのようになっているかが問題になるのではないかと感じています。

視察報告書

報告者氏名 酒井睦夫



1. 委員会名： 市民経済常任委員会
2. 期日：平成 26 年 9 月 18 日
3. 視察地及び調査事項： 柏市南部クリーンセンター
4. 所感等： 下記

視察の背景

- 1) 流山市、松戸市、我孫子市は、放射能焼却灰の一部を手賀沼終末処理場（千葉県下水処理施設）の隣接地に一時保管していた。
- 2) 国において最終処分場を確保することになっているが、見通しがたたないため、平成 27 年 3 月末までに各市はいったん焼却灰を引き揚げ、各市において一時保管を行うこととなった。
- 3) 流山市は「当分の間」（具体的に何年かは不明）安全な形で保管しなければならず、その方法として柏市が採用している「ボックスカルバート」（保管建屋）を視察することになった。

焼却灰保管の現状

- 1) 1 kg 当たり 8000Bq 超の「指定廃棄物」はクリーンセンターと手賀沼処理場に保管されている。
- 2) 2,000～8,000Bq 以下の廃棄物はクリーンセンターに保管されている。
- 3) 現在は仮設テント内や煙突内部に保管している。
クリーンセンターの保管状況も併せ視察した。

視察で確認できたこと

- 1) ボックスカルバートは「厚さ 30 cm のコンクリートでできた倉庫」であり、従来の保管とは比較にならないほど安全である。
- 2) クリーンセンター近辺の市民にとって最大の不安は、大地震、大洪水等の自然災害に耐えられるか、である。

結論

- 1) 最終処分場は国の責任で確保することになっているが、候補地となる地元は猛反対するので、いつ実現するか予想が立たない。
- 2) 「当分の間」は各自治体の責任で保管することになっている。

- 3) ボックスカルバートの建設費や手賀沼からの輸送費は全て国が負担する。
- 4) 大震災から3年半経過した。この間放射能対策で流山市は約26億円かかっている。国庫補助が約16億円。東電負担が約7億円。県補助金約2千万円。流山市の負担は2億3千万円。
- 5) 近隣住民に十分説明し、理解を得ることを前提に賛成する。
- 6) ボックスカルバートは、その耐久性から10年でも20年でも問題がない。そのため、国は最終処分場を探すことを忘れ、このまま放置する可能性がある。政権も市長も役所の担当者も変わる。誰もこの問題を意識しなくなる時がくる。－ 最大の問題点はここにある。

以上

市民経済委員会 柏市南部クリーンセンター視察報告書

提出者 官田一成



日時 平成26年9月18日

場所 千葉県柏市南増尾56-2
柏市南部クリーンセンター

内容 ・1キロ・グラム当たり8000ベクレル超の放射性物質を含むごみ
焼却灰の保管場所及び保管方法の現地視察

所感 ・指定廃棄物の処分問題で千葉県は、平成27年3月末までに、国が
最終処分場を、県内に整備することが困難との判断があった。
・これにより我孫子市にある県営手賀沼終末処理場で保管中の松戸市、
柏市、流山市、3市分の指定廃棄物を搬出した市に返却しなければ
ならなくなった。
・この対応として当市でも保管場所の確保と保管方法を、検討せねば
ならなくなった。
・柏市では、コンクリート製で、放射能遮蔽度が高い、ボックスカル
バートを採用した。
・当市でも柏市の方法を採用の方向で検討したいとの執行部の提案で
あったので、市民経済委員会で現地視察を行った。
・現地を視察してみると、風水害の心配はなく、コンクリートの厚さ
が30センチもあり、放射線の遮蔽率も90%以上を確保でき、組
み立て解体も簡単に出来るので、後の撤去時までも安心して、保管
できるものであると委員会としても理解した。

視 察 報 告 書

報告者氏名

松野 豊



1 委員会名

市民経済委員会

2 期 日

平成26年9月18日(木)

3 視察地及び調査事項

千葉県柏市

指定廃棄物の一時保管施設について

4 所感等

千葉県は手賀沼下水処理場(我孫子市・印西市)に一時保管している放射性物質を含む指定廃棄物(1キログラム当たり8000ベクレルを超える放射性物質を含む焼却灰)について、保管期限の平成26年度末以降は、各自治体に引き取りを求める方針を明らかにしました。その中で(1)一時保管である26年度末までに指定廃棄物を手賀沼下水処理場から搬出すること(2)搬出先は、国が選定作業を進める最終処分場を基本とするが、26年度末までに決まらない場合は各市で一時保管をする準備を進めておくことが提案されています。国では来年3月末までに県内に最終処分場を整備する方針ですが、まだ候補地も決まっていません。そのため流山市では、一時的に指定廃棄物を市内に持ち帰る必要が生じました。手賀沼下水処理場で一時保管している指定廃棄物は178tで、流山市クリーンセンター内の仮設テントに一時保管している指定廃棄物の焼却灰972tと併せて、1150tを一括して保管することになりました。一時保管には、遮へい率の高い(99%)厚さ30センチの「ボックスカルバート」をクリーンセンター敷地内に国の負担で設置して一時保管する予定です。そこで市民経済委員会では、手賀沼下水処理場に持ち込みきれなかった指定廃棄

柏市の南部クリーンセンターと流山市クリーンセンターの視察報告

阿部 治正



2014年9月18日に、流山市議会市民経済委員会が柏市の南部クリーンセンターと流山市のクリーンセンターとの視察を行い、私も委員外議員として参加した。

視察の目的は、クリーンセンターで焼却した後に出る放射能を含んだ焼却灰、特に既に手賀沼の一時保管施設に搬出した焼却灰を持ちかえった後、流山市でどう保管・管理するかに関連して、柏市の方法を参考にすること、また流山市の保管方法の現状を知ることにあつた。

柏市の南部クリーンセンターにおける放射性焼却灰の保管は、ボックスカルバートという、厚さ30センチ・高さ(内径)3.5メートル・幅(内径)、のコンクリートの箱形容器を32個連ねて、そこに集積するという方法である。厚さ30センチでは、放射線の遮蔽効果は99%になると言われている。内面に防水塗装をし、接続部には防水シールを施している。建設費用は66,447,150円(搬入費は別)。

流山市も、手賀沼の一時保管施設に搬出した8,000ベクレルを超える指定廃棄物などの保管のため、柏市を参考にしてボックスカルバートを導入し、クリーンセンター敷地内に設置する予定である。まずは指定廃棄物を保管するため、その後に2,000～8,000ベクレルの放射性焼却灰の保管のためのボックスカルバートを設置していく予定であるという。

視察を通して改めて痛感したことを何点か記したい。

ひとつは、高いレベルの放射能を含んだ焼却灰の保管方法として、テントを設置してその中に集積するという流山市の方法は問題が多いことを、私は市議会において何度も指摘をしてきた。風水害の影響が甚大化している近年、強風が吹いた時、水害に見舞われた時、その他の自然災害に対してテント内への積み上げという方法では焼却灰の飛散や流出の危険が大きいことは自明であったからだ。しかし当局は、テントは強い風にも耐えられる、テントが被害を受ける水害は想定しにくいなどの理屈で、この方法でよ

しとしてきた。今、テント内での保管では問題が大きいことを理解して、ボックスカルバートの導入を決断したことは了とするが、その間に3年半を要したことは問題だと言わなければならない。

また、ボックスカルバートとは言え、万全な保管方法とは言えないことも理解しておく必要がある。放射線の遮蔽率 99%というデータ、内面防水加工や防水シールの施行の効果などについても、過信は禁物だ。

更に、そもそも、手賀沼の一時保管施設に搬出することについても、流山市議会の中でただひとりではあったが、私は反対の主張を述べた。それは、第1に放射性廃棄物の発生自治体が他の自治体にそれを押しつける、つまり自分たちが嫌なものを他の人たちに押しつけるという行為は道義的に考えて問題があること。第2に国が建設をしている千葉県内での最終処分場は、地元住民の思いや意向などを考えると容易ではないことから、手賀沼での一時保管分は期限が来たら流山に持ちかえらざるを得なくなり、持ち出しと持ち帰りの二度手間となることは明らかであること。第3に、他市へ持ち出すことはこの問題にとって何の解決にもならず、かえって問題の深刻さを見失わせ、解決したとの錯覚を引き起こし、ひいてはそもそもの大元である原子力発電所が抱える問題性を自治体も市民も真剣に考え抜く機会を失ってしまうこと、などが理由であった。

放射性廃棄物の保管と管理については、当面は、可能な限りの放射能防護、安全対策を講じながら、そして市民との真剣な対話を通して、発生自治体での自区内管理を甘受するしかないだろうと考える。もちろん、この問題を生じさせた国と東京電力の責任を厳しく追及しつつ、財政対応も求めていくことは無条件に必要である。同時に、流山や東葛の地域に降り注いだ放射性物質とそれが焼却灰の中に姿を現したときの放射能のレベルについては、そのより安全な保管・管理・処理の方法について、将来的には技術的に対応が可能となることも想定したい。

視 察 報 告 書

報告者氏名 楠山 栄子



1 委員会名

市民経済常任委員会

2 期 日

平成26年9月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1) 柏市南部クリーンセンターの指定廃棄物一時保管庫

4 所感等

現在、1キログラムあたり8000ベクレルを超える焼却灰は手賀沼下水道終末処理場に一時保管されている。この一時保管場所での保管期限が来年3月で終了。国の予定では、県内に最終処分場を整備する予定だったが、いまだ、候補地も決まらない状態である。このため、流山に一時保管所を作り、指定廃棄物を手賀沼終末処理場から市内に持ち帰る必要が出てきた。

今回、流山市に設置予定のボックスカルバートをすでに設置している柏市南部クリーンセンターを見学した。私は市民経済委員ではないが、同行させていただいた。

視察目的の仮保管庫は、下水道用管渠ボックスカルバートを利用したもの。コンクリート製の四角形の枠を連結し、継ぎ足している。大きさは、厚さ300mm、内寸が、幅5,700mm×高さ3,500mmで、延長48m。ドラム缶約1,800本を収容できる。通常部分は30センチメートルの厚さで、99%の放射線を遮断するといわれている。継目部分はゴムで連結され水等が混入しないようになっている。継ぎ目部分の密閉性についてたずねると、隙間は非常に狭く、隙間から外部へ放射線が特に多く抜け出るとは考えにくいとの説明だった。

ボックスカルバート周辺の放射線量は、約 0.1 マイクロシーベルトと安全性も確保されているとのこと。

比較して、柏市は、ボックスカルバートの下は元々は駐車場、地山。対し、流山は田んぼ地で、地盤が緩いところである。地元自治会の心配に対し、流山市は丁寧な説明と、設置後の安全対策にぬかりがあってはならないと実感する。一刻も早い、最終処分場の決定が待たれる

視 察 報 告 書

報告者氏名 青野 直



1 委員会名

市民経済委員会

2 期 日

平成26年9月18日(木)

3 視察地及び調査事項

千葉県柏市

指定廃棄物の一時保管施設について

4 所感等 柏市南部クリーンセンターでは、ドラム缶約1,800本が保管されていました。放射線量についても搬入前搬入後と10ヶ所の測定を行い、変動値についても周辺住民にも公表し、市民立会いのもと、外部に影響のないことを確認されていました。

特に、柏市の場合は、フォークリフトを使いパレット3段積みで実施をされていました。住民の理解をいただく為には、日頃から周辺自治会との信頼関係に努めてきたことが大きかったと考えます。

本市の場合も、指定廃棄物を県施設から持ち帰る訳でありますから、周辺住民に対しましては、まず、手賀沼流域下水道終末処理場への一時保管の経緯をはじめ、千葉県の方向性、国の最終処分場の選定状況、指定廃棄物等の一時保管に対する市の対応、ボックスカルバートとその遮へい効果について、しっかりと説明をして、周辺住民の理解と協力をいただかなければならないと考えます。

その上で、ボックスカルバート等の管理、監視についてしっかりと対応していくことが大事と考えます。私も、ことの重要

性を再認識し、周辺住民の安心安全に全力で取り組んでいきたいと考えています。

視 察 報 告 書

報告者氏名 乾 紳一郎



1 委員会名

市民経済常任委員会

2 期 間

平成26年9月18日(木)

3 視察都市等及び視察項目

(1) 柏市 放射性廃棄物焼却灰の一時保管施設について

4 所感等

市民経済常任委員会の行政視察にオブザーバーとして参加しました。

2011年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故で流山市は大きな被害を受けたが、中でも、放射性物質による環境汚染は深刻で、事故直後の水道水への放射性ヨウ素による汚染、さらに、大量の放射性物質が降雨とともに地上に降り注ぎ、ホットスポットといわれる高濃度汚染区域となりました。

2011年6月～7月には、流山市クリーンセンターで焼却処理している一般廃棄物の焼却灰に基準を超える高濃度放射物質が含まれていることが明らかとなり、最終処理場から焼却灰を戻されるという緊急事態となりました。流山市は、クリーンセンター内で一時保管するための施設(テント方式)を設置するとともに、増え続ける放射性焼却灰の中間処理施設の建設を国・県に要望し、千葉県は手賀沼にある下水道処理場の一角に一時保管施設をつくり、流山市、柏市、松戸市の放射性焼却灰が保管されることとなったのです。

一時保管に対して、地元、我孫子市と周辺住民が反対する中で、手賀沼への一時保管施設は2016年3月までとされ、期限が迫

っているにもかかわらず国・千葉県は県内の中間処理施設の建設について明確な方針が示されないまま、期限切れをむかえる状況となりました。そのため、流山市は、手賀沼に一時保管している放射性焼却灰を市内のクリーンセンター内に戻す準備を始めることになったのです。

今回、市民経済委員会は、手賀沼から返還された放射性焼却灰の保管方法として、柏市が2012年度に実施しているコンクリートボックスカルバートによる保管施設の構築について、流山市も同様の施設を建設するとのことで現地の視察をおこなったものです。

2014年に埼玉県東部から千葉県野田市を竜巻が襲いました。わが党は、直後に、現地を視察し、家屋や大木をなぎ倒す竜巻の脅威を実感しましたが、これまで、クリーンセンターにおけるテナントによる放射性焼却灰の保管は、竜巻など強風や地震災害では破壊され、焼却灰が飛散して2次被害を拡大させると指摘し、柏市の堅牢な保管施設を参考にするように提案してきました。今回の放射性廃棄物の返還にあたって、コンクリートによる施設を構築するとの流山市の方針は、わが党の提案を流山市当局も認めたこととなります。引き続き、安全な保管のために努力するよう望むものです。

放射性焼却灰の問題は、3.11による福島原発事故が引き起こした深刻な放射能汚染の問題が、いまだ未解決のままであることを示すものです。国も流山市当局も、放射能問題は福島県の問題で流山市はもう過ぎ去った過去のこととしています。放射能の測定や除染は子どもの施設に限ってすすめられ放射線セシウムの値は低くなりましたが放射能は消えたわけではありません。さらに、3.11直後に降り注いだ放射性ヨウ素の量は十分把握し切れておらず、福島県の健康調査で子どもの甲状腺がんが年々増加していることを考えれば、流山市の子どもたちの健康への影響も心配されるところです。わが党は、子どもの甲状腺エコー検査への助成など、健康調査の実施を求めています。流山市長は、国

に要求するが市としてはやる考えはないと拒否し続けています。
放射能汚染への対応は中長期の視野から取り組む必要があり、引
き続き、行政に対して、廃棄物処理の問題とともに、対応を求め
ていきます。